

DOHaD 日本語名称に関する提案 ～周産期を目前にした若年層の意見から～

メタデータ	言語: jpn 出版者: 日本DOHaD研究会 公開日: 2016-03-24 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 原馬, 明子 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10271/2950

DOHaD 日本語名称に関する提案 ～周産期を目前にした若年層の意見から～

原馬 明子

麻布大学 生命・環境科学部

現在の日本の出産、育児に関して、出産年齢や出産率、育児環境などの問題は諸外国よりも多く山積しており、早急に対応する必要がある。女性の社会進出や晩婚化によるライフスタイルの変化、社会保障の質の低下から医療機関の対応だけでは簡単に解決できないことも多い。しかし、少なくとも、出産を考える女性は、周産期中の母体の栄養状態を含む様々な環境が子どもの発達、成長にどのように影響するかを認識しておくことが重要である。そのためにも、まずは DOHaD の概念が一般にも普及しやすいように、馴染みやすい名称を掲げることが望ましいと考えられる。

そこで今回、近い将来に妊娠・出産が予想される女子大学生、またはそのパートナーとして支える役割を担う男子学生（19-24 歳）を対象に、“周産期”についていくつかの意識調査を行い、DOHaD への関心を高めるためのキーワードを挙げてもらった。

食品を中心とした自然科学を学ぶ大学生 234 名（男子 109 名、女子 125 名）の中で、DOHaD というキーワードを知っている学生は全くなかった。しかし、胎児期の子宮内環境が、出生、成人後に発症する疾患と何らかの関係があると認識している学生は男女合わせて約 35%に上った。妊娠中に心がけることについては、①バランスのいい食事を摂ること、②飲酒や喫煙を控えること、③精神的に安定な状態を保つことなどが多かった。また、DOHaD から連想しやすいキーワードとしては、“胎内環境”が最も多く、次いで“発達環境”、“発育環境”、“母子環境”、“母子栄養”などが示された。さらに、DOHaD についての勉強会などに興味を持って参加したいと思う学生は女子で半数を上回った。妊娠中に胎児が影響を受けて将来的に発症する疾患は、母親の心がけや意識しだいで回避できるものであるという認識はまだ浅く、先天的な疾患と混同しており、彼らは“周産期”に対して関心はあるが情報収集の場が少ないことが分かった。

周産期は生涯で最も幸福な時期であるにもかかわらず、身体的、社会的にデリケートな時期でもある。出生率が下がり、高齢出産が増加する現代において、DOHaD の概念をより早く若年層に理解してもらうことはとても重要である。今回のアンケート調査からも、一般的に受け入れやすい前述のキーワードを名称に加えるとより DOHaD を広報しやすいのではないだろうか。

【略歴】

学歴

平成 15 年 3 月 京都工芸繊維大学大学院 工芸科学研究科 博士前期課程修了

平成 23 年 3 月 京都工芸繊維大学大学院 博士取得(学術)

職歴

平成 15 年 4 月 湧永製薬株式会社入社

平成 21 年 4 月 日本水産株式会社入社

平成 23 年 6 月 麻布大学 生命・環境科学部 特任助教

平成 27 年 4 月 麻布大学 生命・環境科学部 特任准教授

研究領域

脂質栄養学(多価不飽和脂肪酸に関する研究)

薬理学(抗ストレス, 循環器系, 学習行動を含む精神・神経化学に関する研究)